

磯に空さふりてゑけりまが箱瀉伊與但是は磯歟ふとも瀉のこほひれをばさかたに
 瀉ちく鹽ひのんかたに玉もかりかすゐがた共鹿島瀉播州桂瀉同右山夜のまほひのちが
 夜中瀉近てもよびし舟人となかりかたかも覺高瀉たのあまのともやひくちやぬらんかゆひ瀉
 いふつゆせんあま悲し旅をるかひがかりかよはんたる難波瀉玉津の床波うがた江にめぐるみつくし
 千しいのすつがたをみましく戀さみつほひちのなごり沖の釣くまおぼなる月夜みじも玉藻あし
 あしうのあみつあさふたづ月蘆間の氷雪うりも埋れにけり時雨あし丸屋ふり月都でしほ行か
 鹽あしにあさるあさふたづ月蘆間の氷雪うりも埋れにけり時雨あし丸屋ふり月都でしほ行か
 ふ舟のつなやあやめなゆふなきあしのむら立あまの捨舟あまのさしはかふれてなにはあし
 すにかたるとな真砂地ふく松の引みなほ春の浦風あまの乙女はかたふれてなにはあし
 つこむなみかすのみにし長井瀉同右千島鳴海瀉尾州千島かたふる月よそあにちなるみ
 のはまににいそぐらびうら海上瀉下總しほみ君はたつと夏すおきつなすかみわたの
 りにけ黒牛瀉うらむ紅の玉もすそ引行はたが子ほひの松浦瀉肥前さよ姫八重のふちかた
 をまちつら八重の末の白雪山の蟬暮ぞ涼の衣に秋藤瀉伊勢紫のかひあるうら見えける松た吹居瀉泉
 袖の二見瀉同右月はあま萩くれそ戀にあふまも去らすふ明石瀉播州月あまのたき繩あまの松風とま
 鳥月の浪の千さあまの末晴て舟波の統せみえの鹽風たつあゆち瀉ゆさくら思へたづにけらさあ
 すみ舟か熱田瀉尾張火ありち瀉筑前も家なりちがたありなぐさみせてゆめ淡路瀉あはち風吹そひ
 てやがてなると淺香瀉未勘但奥州歟千島が花の色にしほひのやと安須賀瀉の道をあがすよひ
 はしたちかへれしけん葦屋瀉攝州にあまのたか月のけすむりだのうら薩摩瀉薩摩がおきの小島に
 やかへし清見瀉の浦ふし三ほのせきもる波の通路これらなそり波關鳥駒とめ戀磯山本やられぬ花
 象瀉きさかたのあまの世中はかくても過り

〔萬葉集二雜歌〕和銅四年歲次辛亥河邊宮人姫島松原見孃子屍悲歎作歌二首○首略一